

富山県地域交通ビジョン

～つかいやすく、わかりやすい、持続可能な地域公共交通の実現～

はじめに

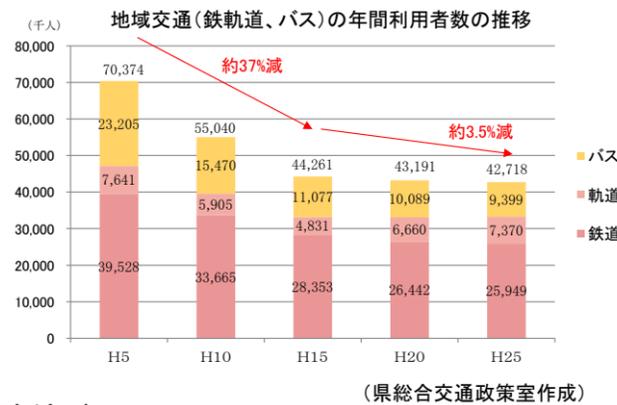
- ・本県の地域交通にかかる基本的な方向や重点的に進める施策等について「富山県地域交通ビジョン」を策定
 - ・交通事業者、行政が、県民や来訪者にとって地域交通を便利に利用できるよう連携して取り組む
 - ・県民の皆さんも、可能な限り日常生活において利用機会を増やすことが、将来の本県の地域交通の維持・発展を支える重要な要素であることを理解し、ご協力いただくことが求められる
- (3つのキーワード)

- 運行ダイヤや乗継ぎが便利で、誰もが利用しやすい鉄軌道やバスを目指す「つかいやすい」地域交通、
- 運行・乗継情報や交通案内が充実し、誰もが円滑に移動できることを目指す「わかりやすい」地域交通、
- 一定の利用水準を維持するとともに、効率性や採算性等も考慮しながら、県内の地域公共交通ネットワークを確保し続けることを目指す「持続可能な」地域交通

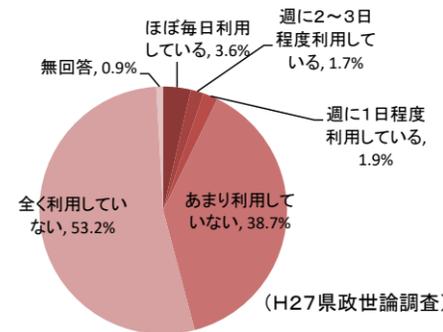
1 富山県の地域交通の現状と課題

(1) 新幹線開業後の利用状況等

- ・近年、本県の鉄軌道及びバスの輸送人員は減少傾向
- ・新幹線開業により、鉄道を利用した首都圏との流動人数は、約3倍に増加
- ・県内観光地の入込客数が増加し、鉄道など地域交通の利用者も開業前に比べて増加(約6%)
- ・本県は車の保有割合が高く、週1回以上地域交通を利用している県民の割合は7%程度と低い



現在地域交通を利用する頻度について



○域内交通(住民の身近な生活圏内での移動)

- ・市町村がコミュニティバスの運行により、生活の足を確保。路線バスの運行が適さない地域では、公共交通空白地域となっている
- ・コミュニティバスは、大多数が赤字路線で多額の公費により支えられている

○域間交通(市町村間など地域間を跨ぐ移動)

- ・交通機関相互の接続利便性が低い場合、拠点施設への移動に時間を要するため、地域交通が利用されない傾向
- ・接続利便性の向上により、鉄軌道や幹線バスなどの利用促進を図る工夫が求められる

○広域交通(県境を跨ぐ移動も含む広域的な移動)

- ・新幹線の開業を契機に、観光客等が増加。観光地を周遊できる地域交通ネットワークのさらなる充実が求められる
- ・新幹線駅から主要観光地等への交通手段がわかりにくいとの意見が多い

○交通事業者

- ・交通サービスの維持向上に努めているが、利用者の減少など、経営環境は厳しい
- ・一部の施設・設備は老朽化が進み、計画的な更新が必要。また、バス運転手など交通サービスの担い手確保が重要な課題

(2) 今後の見込み

- ・少子高齢化の進展等により、地域交通を取り巻く環境は厳しく、利用者の減少や交通サービスの低下が懸念
- ・高齢者の免許返納者の増加や、車を使用しない県外からの移住者の増加などが見込まれる

2 策定方針と基本目標

(1) 策定方針

- ・地域交通ネットワークの確保・充実に向け、今後10年間の地域交通の目指すべき目標や基本的な方向性を示す

(2) 基本理念と基本目標

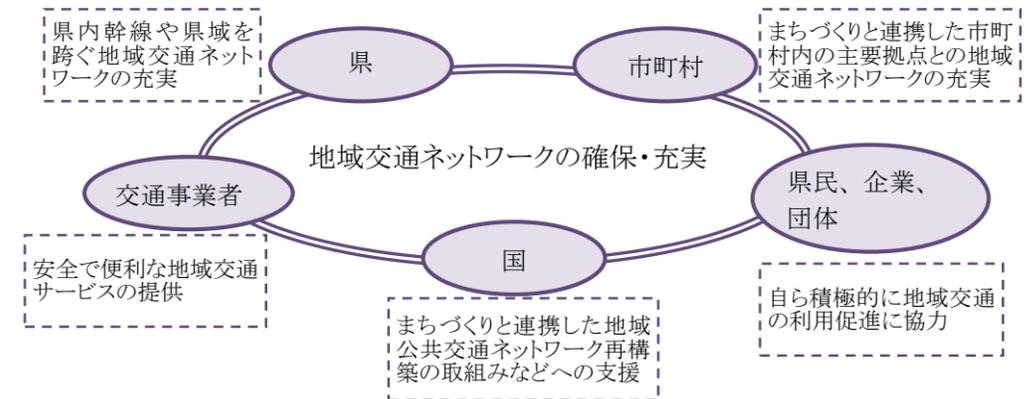
- 基本理念
利用目的に応じた利便性の高い地域交通ネットワークを形成すること

○基本目標

- ①利便性向上による県民等の地域交通の利用促進
- ②国内外の来訪者の円滑な移動の実現
- ③持続可能で多様な地域交通サービスの実現

※基本目標の実現に向けた取り組みを進めることで、新幹線開業後の現在の利用水準を維持に努める

(3) 関係者の役割分担と連携



(4) 取り組みの視点

- ① 域内交通
・市町村のまちづくり計画と連携した地域内の交通ネットワークの充実と利用促進
- ② 域間交通
・豊富な鉄軌道網等を活用した地域間の交通ネットワークの充実と利用促進
- ③ 広域交通
・新幹線駅や空港を起点とした広域的な交通ネットワークの充実と利便性の向上
- ④ 交通環境の整備
・利用者にやさしい、安全・安心な地域交通環境の整備
- ⑤ 関係者の連携による取り組みの推進
・交通事業者・行政・県民等が連携協力し、地域交通の利用啓発や持続可能な事業環境の整備

※取り組みの実施にあたっては、安全で利便性の高い地域交通サービスの提供を、県民や地域住民のコンセンサス・まちづくりとの関係や、投資の効率性・採算性等に留意しながら進める

3 取り組み内容

別紙のとおり

4 ビジョンの実現に向けて

- (1) ビジョンの推進とフォローアップ・・・関係者によるフォローアップ会議を設置
- (2) 地域交通にかかるデータの活用と分析
- (3) 地域交通に関する新たなシステムや取り組みの情報収集と有効活用

※目標はH37までを想定

取組み内容(主なもの)

①域内交通

- 市町村におけるまちづくり計画と連携した地域交通ネットワークの計画の策定とその推進
 - ・市町村におけるまちづくり計画を踏まえた地域交通計画の策定
 - ・「地域交通会議」により、地域交通サービスの充実について検討し推進
 - ・利便性と効率性の観点から、持続可能なバス路線となるよう見直し
- 地域の実情に応じた多様な地域交通サービスの展開
 - ・バス路線を地域内の主要拠点(駅、学校、病院等)を効果的に結ぶ路線となっているか見直し
 - ・域内の地域交通の利用状況等を調査し、必要に応じて実証運行等によりニーズを確認 など
- 公共交通不便地域の利便性の確保
 - ・デマンドバスやタクシーなどデマンド交通による公共交通不便地域の利便性の確保 など

(目標指標)	(現状)		(目標)
・地域交通計画を策定している市町村数	6市町村	→	15市町村
・公共交通空白地域	市町村ごとに一部存在	→	できる限り解消

②域間交通

- 公共交通機関相互の接続利便性の向上等
 - ・関係する交通事業者がダイヤづくりのコンセプト共有のため、協議の場の設置を検討
 - ・交通事業者が連携した企画きつぷの造成 など
- 利便性を考慮した等時隔ダイヤの実現
 - ・等時隔ダイヤを可能な限り実現できるよう検討
- 拠点駅など交通結節点の機能強化
 - ・拠点駅において、待合室や案内表示などの駅舎の整備や駅周辺整備による拠点機能の強化
 - ・パークアンドライド駐車場や駐輪場の整備による、車利用者の地域交通の利用機会の拡大 など
- 複数の市町村等の連携による地域交通の利便性向上
 - ・鉄道や幹線バスに係る複数の沿線市町村の連携協力による地域交通の利便性の向上 など

(目標指標)	(現状)		(目標)
・幹線鉄道の運行間隔(最大運行間隔の短縮)	1.5時間から2時間程度	→	概ね1時間程度

③広域交通

- 北陸新幹線の県内駅・富山きときと空港との交通ネットワークの充実
 - ・新幹線駅と県内主要駅を結ぶアクセスバスの運行など、交通の玄関口からの交通ネットワークの充実
 - ・新幹線駅と県内外主要観光地等を結ぶ観光路線バスの運行など観光路線の整備充実 など
- 広域周遊観光ルートの充実
 - ・北陸新幹線との接続ダイヤの改善、隣接県と連携した広域周遊きつぷの造成 など
- 地域観光資源と連携した多様な観光列車の運行
 - ・観光列車や沿線市町でのおもてなしの充実などによる広域観光の推進
 - ・あいの風鉄道においても観光列車を導入 など
- 交通情報等の提供
 - ・観光地を経由する路線バスにおいて、外国語表示など車内案内等の充実
 - ・国内外の個人観光客向けの交通案内情報の提供の充実、フリーWi-Fiの整備 など

(目標指標)	(現状)		(目標)
・観光客の県内交通機関の満足度	49%	→	70%
・新幹線駅に地域交通で1時間以内にアクセスできる県民の割合 ※利便性のよい朝のダイヤでのアクセスを想定	90%程度	→	できる限り高める

④交通環境の整備

- 全国相互利用可能な交通ICカードの導入促進
 - ・全国相互利用可能な交通ICカードの導入(片利用を含む)についての研究 など
- 駅舎・バス停等の利便性の向上
 - ・高齢者等の利用に配慮し、計画的に低床車両やノンステップバスの導入を推進
 - ・「バスロケーションシステム」の導入の推進など迅速な情報提供 など
- 多様なニーズに対応した付加価値の高い交通サービスの提供
 - ・商業施設における買い物バスの運行など高齢者等の買い物支援の推進
 - ・福祉、健康施策と連携し、高齢者の外出機会の拡大と地域交通の利用促進 など
- 安全・安心な地域交通の基盤づくり
 - ・鉄軌道施設の適切な維持管理や老朽化対策を計画的に行い、安全・安心な地域交通の基盤づくりの推進

(目標指標)	(現状)		(目標)
・全国相互利用可能な交通ICカードの鉄軌道・バス数	1路線	→	できる限り増やす
・ノンステップバス導入率	53%	→	80%以上
・バスロケーションシステムを導入している事業者数	6事業者	→	できる限り増やす

⑤関係者の連携による取組みの推進

- 「鉄軌道王国とやま」の情報発信
 - ・関係者が連携し、国内外に「鉄軌道王国とやま」を継続的に情報発信
- 県民の地域交通の利用促進に向けた啓発活動
 - ・地域イベントなどで地域交通を利用する機会を増やすなど、地域の住民運動として推進
 - ・「ノーマイカー運動」について、駅周辺事業所等との連携を強化するなど、工夫しながら効果的に実施
 - ・地域交通のマナー教育の開催など、地域住民への交通マナーの啓発活動の推進 など
- バス運転者の確保など人材育成と交通従事者のおもてなし力の向上
 - ・バス運転手の安定的な確保に向け、PRポスターの作成など関係者が連携し啓発活動を実施
 - ・交通従事者のホスピタリティの向上やマナー教育の推進

(目標指標)	(現状)		(目標)
・ノーマイカー運動の参加者で、地域交通に切り替える意向のある者の割合	23%	→	できる限り増やす
・地域交通乗り方学習の実施市町村数	2市	→	15市町村